８）令和７年度　研究発表等実績（植物系）

令和７年度に当財団職員が発表した植物系の学術論文、書籍等、植物研究室職員による学会等での発表実績、および外部機関より受託した事業を紹介する。本年度は８報の論文発表、10題の学会等発表、１冊の単行本の監修を行い、８件の外部研究資金（6 件は受託事業）を獲得した。なお、リスト中の当財団職員の名前は太字+下線で示した。

【学術論文】

1. **徳原 憲・佐藤裕之・阿部篤志**. 2025. 保存温度及び保存期間がオキナワセッコク種子の発芽に及ぼす影響. 日本植物園協会誌 59：40-45.
2. **Ken TOKUHARA, Hiroyuki SATO, Atsushi ABE,** Masahiro MII. 2026. *In vitro* seed germination and protocorm development of *Eulophia graminea* Lindl. (Orchidaceae). The Biological Magazine Okinawa (64): 7-21.
3. Yuji ISAGI, Taiga SHMIZU, Yukihiro KOBAYASHI, Yoshihisa SUYAMA, Chinatsu TOKUHIRO, Goro KOKUBUGATA, Takuro ITO, Kuo-Fang Chung, **Atsushi ABE**, Takashi MAKINO and Michimasa YAMASAKI. 2025. Genomic analysis highlights the conservation significance of *Torenia concolor* (Linderniaceae) from the periphery of its distribution range, Journal of Plant Research 138:959–969
4. 水野 拓・高山正裕・**阿部篤志・米倉浩司**・仲宗根忠樹. 2026. 沖縄県渡嘉敷島におけるシマチカラシバの新記録. 沖縄生物学会誌 (64): 73-82. (2026 年 2 月 11 日 3 月 31 日出版予定)
5. 末次健司・**阿部篤志**. 2025. クロヤツシロラン（ラン科）を沖縄本島に記録する. 植物地理・分類研究 73(1): 101-104.
6. 末次健司・新城 任・**米倉浩司・阿部篤志**. 2025. 石垣島で発見されたムニンキヌランの新変種」ムニンキヌランモドキ. 植物地理・分類研究 73(1): 109-110 (APG 75 巻 3 号(p. 179-183, 2024)和文要旨)
7. 坂巻祥孝・東 正志・**辻本悟志**・長田聖哉. 2026. 外来昆虫ソテツシロカイガラムシによる奄美大島・沖縄島のソテツの危機. 農業および園芸 101(3): 205-210.
8. Englehardt J. D., Gutiérrez-Ortega J. S., Matsubara N, Deloso B. E., Rodríguez J. M., **Tsujimoto S**, & Carrasco M. D. 2026. The Spread of Cycad Aulacaspis Scale (CAS): Ecological Collapse and Cultural Erosion of *Cycas revoluta* in the Amami Islands, Japan. South Pacific Studies 南太平洋研究, 46 (2), 44-59.

【単行本（監修）】

1. 横田昌嗣（総監修）; **阿部篤志**、**米倉浩司**（監修）、木原 浩. 2026. 琉球植物記. 551 pp. 平凡社.

令和7年度　学会発表一覧

	発表学会等	開催日時	演題	要旨	発表者　（※：筆頭演者）
1	第136回日本森林学会大会	2025年3月22日	沖縄島におけるソテツシロカイガラムシの被害実態とその薬剤防除	沖縄島におけるソテツシロカイガラムシの被害実態について調査した内容と、樹木類のカイガラムシで登録されている薬剤を使用した効果試験の内容について報告した。	※**辻本悟志**, Benjamin Deloso, Ronald D. Cave, Thomas Marler, 長田聖哉, 坂巻祥孝, 稲葉靖子, 亀山統一
2	日本植物園協会第60回大会	2025年5月28日	絶滅危惧植物サクヤアカササゲの種子繁殖における気温、光、種子処理条件の検討	国内希少野生動植物種に指定されているサクヤアカササゲについて、異なる気温、光、種子処理条件で播種した場合の発芽率を調査することで、最適な播種条件を明らかにした。	※**佐藤 裕之**, 天野 正晴, **阿部 篤志**
3	令和7年度亜熱帯森林・林業研究発表会	2025年8月29日	沖縄島におけるソテツシロカイガラムシの被害実態と被害拡大要因について	沖縄島におけるソテツシロカイガラムシの被害実態について調査した内容と、被害拡大要因として、植木市等で販売されているソテツ苗木にソテツシロカイガラムシが付着しているか調査した内容について報告した。	※**辻本悟志**, Benjamin Deloso, Ronald D. Cave, Thomas Marler, 堀江久樹, 辻本文香, 長田聖哉, 坂巻祥孝, 稲葉靖子, 亀山統一
4	日本植物学会第89回大会	2025年9月18日	Symbiotic effects of generalist fungi on Ryukyu Islands orchids seed germination	琉球列島のラン科植物6種より菌根菌を単離し共生発芽を行い、発芽を誘導する菌を特定し、単離した菌が多くの種で有効で、種の保全に重要な菌であること報告した。	※E.J.M. SamadhiKavindya Dissayake, Yumika Mine, Masaharu Amano, **Ken Tokuhara**, Yuki Ogura-Tsujita
5	2025 Joint Annual Meeting of the Entomological Societies of Canada and Alberta （カナダ・アルバータ昆虫学会合同大会）	2025年10月6日	The spread and damage of Aulacaspis yasumatsui (Hemiptera: Diaspididae) in Okinawa Island, Japan -Can Aulacaspis yasumatsui hitchhike on Luthrodes pandava?- 沖縄島におけるソテツシロカイガラムシの被害実態と被害拡大要因 -クロマダラソテツシジミは運び屋となり得るか-	沖縄島におけるソテツシロカイガラムシの被害実態について調査した内容と、被害拡大要因としてクロマダラソテツシジミがソテツシロカイガラムシを伝播する可能性について報告した。	※**Satoshi Tsujimoto**, Benjamin Deloso, Ronald D. Cave, Norikazu Kameyama, Hisaki Horie, Ayaka Tsujimoto, Shotaro Miyano, Seiya Nagata, Yositaka Sakamaki, Yasuko Ito-Inaba, Thomas Marler
6	日本レジャー・レクリエーション学会　第55回大会	2025年12月21日	オフィスグリーンの設置が職員のウェルビーイングと職場内コミュニケーションに及ぼす効果	オフィスグリーンは、健康意識の向上、ストレス緩和、職場仲間との交流の深化に効果があることが確認されたことについて報告した。	※**辻本悟志**, 堀江久樹
7	日本植物分類学会第25回大会	2026年3月6日	西表島における全島網羅的・定量的調査に基づいた維管束植物の」種多様性と植生タイプの分布パターン	2014-2025年に西表島植物誌プロジェクトの一環として、同島の森林域全体を1 kmメッシュに分割し、各メッシュで定量的植物相調査を行った結果をもとに、島内の種多様性の分布状況を調べて植生分類法に基づいて植生タイプを認識し、それらと地形、気候条件とを比較解析することによって、西表島における種多様性および植生タイプの分布パターンとその成因について考察した。	※山本武能、遠山弘法、設楽拓人、指村奈穂子、田金秀一郎、**阿部篤志**、**米倉浩司**、天野正晴、古本良、梶田結衣、内貴章世
8	日本植物分類学会第25回大会	2026年3月6日～3月8日（ポスター）	日本本土に収蔵されている戦前の琉球諸島産標本の採集者と採集地の考証に向けたデータベースの構築	日本本土の研究機関に保管されている採集データが不明かあいまいな明治大正期の琉球列島産標本の中に、実際の採集者や採集場所が特定可能なものがかなり含まれていることを報告し、総合的な標本データベースの構築と標本の挟まれていた新聞紙上の採集データの解読を通してこれらを推定する手がかりについて説明した。	※**米倉浩司**
9	日本植物分類学会第25回大会	2026年3月6日～3月8日（ポスター）	日本産タケ亜科の形態分類と分子系統は対応するのか？ - ddRAD-seq法による解析 -	日本とその周辺地域に分布するイネ科タケ亜科植物145分類群（うち日本産は87分類群）について、ddRAD-seq法に基づいた高解像度の分子系統解析を行って系統関係を推定し、また交雑起源と推定されている分類群については両親の推定を行った。その結果、属の系統関係を高い支持確率で推定でき、雑種起源と推定されていた属についてもおおむね従来の推定を支持する結果が得られた。	※支倉千賀子、飯嶋佑太、富塚柚貴菜、尾関未帆、郭芩、渡邉誠太、名波哲、岩崎貴也、池田博、**米倉浩司**、Til Kumari Thapa、任炯卓、三井裕樹
10	日本農芸化学会2026年度大会	2026年3月9日～3月12日	アカギヒメヨコバイ抵抗性を示した樹木アカギの成分的背景の解明 Elucidating the chemical composition underlying resistance of Bischofia javanica to Coloana arcuata	アカギヒメヨコバイに対する抵抗性を示したアカギOki-1株について、葉の残留農薬試験、葉メタノール抽出物のLC-MS分析結果より、Oki-1株の農薬は未検出（検出限界0.5ppm）であること、葉の成分としてはエラジタンニン類が複数検出されたことから、現状では残留農薬により抵抗性を示したとは考えずらいことを報告した。	※**敷島 恒平**、**辻本 悟志**